

用語集

| 用 語 | | 意 味 |
|-----------------------------|----|---|
| 【あ行】 | | |
| 硫黄酸化物 (SO _x) | いお | 硫黄の酸化物の総称であり、一酸化硫黄 (SO)、二酸化硫黄 (SO ₂) などが含まれる。硫黄分が含まれるごみや、灯油などの化石燃料の燃焼に伴って発生し、大気汚染や酸性雨などの原因となる。大気汚染防止法による規制対象物質。 |
| 一般廃棄物 | いつ | 家庭や事業所などから排出される、可燃ごみ、粗大ごみ、資源ごみ、し尿などのこと。 |
| エネルギー回収型廃棄物処理施設 | えね | ごみの焼却によって発生する熱エネルギーを、熱や電気として回収する施設。本計画では、国の「エネルギー回収型廃棄物処理施設整備マニュアル」で定める施設のことをいう。 |
| 塩化水素 (HCl) | えん | 塩素分が含まれるごみの燃焼に伴って発生する物質。単体では無色・刺激臭を有する。大気汚染防止法による規制対象物質。 |
| 温室効果ガス | おん | 地球の表面付近の大気を暖める温室効果を引き起こす気体のこと。二酸化炭素、メタン、フロン類、水蒸気などが含まれる。 |
| 【か行】 | | |
| 回帰分析 | かい | 結果となる数値と要因となる数値の関係性を調べて、それぞれの関係を明らかにする統計的手法のこと。 |
| 可燃性粗大ごみ | かね | 木製家具や絨毯など、焼却可能な粗大ごみのこと。 |
| 起債 | きさ | 地方債（地方公共団体が発行する債券）を起こすこと。 |
| 基準ごみ | きじ | 新ごみ処理施設における計画ごみ質の基準となる、平均的なごみ質のごみのこと。 また、水分が少なく発熱量が高い場合の計画ごみ質の上限的なごみを「高質ごみ」といい、反対に、生ごみ等の水分が多い場合の計画ごみ質の下限的なごみを「低質ごみ」という。 |
| 元素組成 | げん | ごみの組成を元素単位で表したもの。炭素 C、窒素 N、水素 H、塩素 Cl、硫黄 S、酸素 O などにより表せられる。 |
| 高質ごみ | こう | 「基準ごみ」参照。 |
| 交付税措置 | こう | 施設整備事業の財源として充当した起債額に応じて、国からの交付税が増額される仕組み、またその見込み。 |
| ごみクレーン | ごみ | ごみピット内のごみを攪拌（混合）し、均質化するとともに、ごみホッパに投入する設備。 |

| | | |
|-------------------------|----|---|
| ごみ質 | ごみ | ごみの物理的あるいは化学的性質の総称のこと。三成分（可燃分、灰分、水分）や低位発熱量、単位体積重量、種類別組成、元素組成などにより、その性質を表示する。 |
| ごみピット | ごみ | 搬入されたごみを、一時的に貯留するための設備。 |
| ごみホッパ | ごみ | ごみピットと焼却炉の間にあり、焼却炉へのごみの投入口となる設備。 |
| 【さ行】 | | |
| 災害廃棄物 | さい | 地震や台風、大雨などの自然災害に伴って発生する廃棄物のこと。 |
| 残渣 | ざん | 処理後に残った残留物のこと。ごみの焼却の場合、焼却灰などがこれにあたる。 |
| 三成分 | さん | ごみ中の水分、可燃分、灰分のこと。 |
| 資源化 | しげ | 処理残渣などを、製品の原料としてリサイクルすること。県内の処理施設で発生する焼却残渣は、建設資材に資源化されている場合が多い。 |
| し尿処理汚泥 | しに | し尿処理施設における処理に伴って発生する汚泥のこと。 |
| 循環型社会 | じゅ | 廃棄物の発生抑制、循環資源としての利用、適正な処分の確保などにより、天然資源の消費が抑制され、環境への負荷ができる限り低減される社会。 |
| 循環型社会形成推進交付金 | じゅ | 市町村等が、廃棄物の3R（リデュース、リユース、リサイクル）を総合的に推進するため、市町村の自主性と創意工夫を活かした広域的かつ総合的な廃棄物処理・リサイクル施設整備に対して、国から交付される交付金のこと。 |
| 准連続焼却方式 | じゅ | 間欠稼働をする（24時間連続稼働しない）連続焼却方式。 |
| 焼却灰（主灰） | しよ | ごみを焼却処理した後に残る燃え殻のこと。焼却時に発生する排ガス中に含まれる灰（飛灰）と区別して、主灰ともいう。 |
| ストーカ炉 （ストーカ式 焼却炉） | すと | 火格子（ストーカ）を階段状に並べた燃焼装置を有する焼却炉のこと。火格子の動きにより、ごみを移動させながら乾燥、攪拌、燃焼させる。 |
| ストックマネジメント | すと | 構造物や施設の機能診断に基づく機能保全対策の実施を通じて、既存施設の有効活用や長寿命化を図り、ライフサイクルコストを低減するための技術体系及び管理手法のこと。 |
| 生活環境影響調査 | せい | 廃棄物処理施設が周辺的生活環境にどのような影響を及ぼすかという点について、周辺地域の生活環境の現況を把握し、施設の設置による影響を予測し、その結果を分析すること。 |
| 全連続焼却方式 | ぜん | 1日24時間連続して稼働する連続焼却方式。 |

| 【た行】 | | |
|---------------|----|--|
| ダイオキシン類 | だい | 特定の構造を持つ有機塩素化合物とその関連物質の総称。ごみの燃焼過程で意図しない副生成物として生成される。人体に対する発がん性などが指摘されている。 |
| 単位体積重量 | たん | 1 m ³ あたりの重量のこと。 |
| 窒素酸化物 (NOx) | ちつ | 窒素の酸化物の総称であり、一酸化窒素 (NO)、二酸化窒素 (NO ₂) などが含まれる。硫黄酸化物と同じく大気汚染や酸性雨などの原因となる。大気汚染防止法による規制対象物質。 |
| 調整池 | ちよ | 集中豪雨などの局地的な出水が公共用水域に一気に流入しないよう、雨水を一時的に貯水するための池のこと。 |
| 月別変動係数 | つき | 時期によるごみ量の変動を表したもの。年間の日平均処理量を1とした時の、各月の日平均処理量を指す。 (例) 年間日平均処理量が10 t/日、ある月の日平均処理量が12 t/日の場合、その月の月別変動係数は (12 t/日) ÷ (10 t/日) = 1.2 となる。 |
| 低位発熱量 | てい | 「発熱量」参照。 |
| 低質ごみ | てい | 「基準ごみ」参照。 |
| 都市計画決定 | とし | 本計画では、新ごみ処理施設を都市計画施設として都市計画に定めることをいう。 |
| トレンド法 | とれ | 過去の動態が将来にわたって同様に推移するという考え方に基づく推計手法。 |
| 【な行】 | | |
| 熱しゃく減量 | ねつ | 焼却後に残った焼却灰が、焼却前と比べてどれくらい減少したかを表す数値。無害化、安定化の程度を表す指標となる。 |
| 【は行】 | | |
| バイオガス | ばい | 微生物の働き (メタン発酵) により、生ごみや紙ごみ等の有機性廃棄物から発生するガスのこと。ガスにはメタン (可燃性ガス) が含まれるため、発電に利用することができる。 |
| ばいじん | ばい | ごみの燃焼に伴って発生するスス、チリなどの粒子状の物質のこと。 |
| 排水クローズド方式 | はい | 施設内で発生する排水を処理し、プラント設備等において再利用することにより、事業場外へ排水を放流しない方式。 |
| バグフィルタ (集じん器) | ばぐ | 排ガス中のばいじん等をろ過捕集する集じん装置の一つ。ろ布と呼ばれる織布や不織布により、ばいじん等の浮遊物質や、付着した有害物質などを除去することができる。 |

| | | |
|------------------|----|--|
| 発熱量 | はつ | ごみが燃焼した際に発生する熱量のこと。 燃焼反応により生じた水蒸気の凝縮を考慮した発熱量を高位発熱量、考慮しない発熱量を低位発熱量と呼ぶが、ごみ処理施設では排ガス中に含まれる水分は水蒸気として排出されるため、施設設計においては低位発熱量を用いる。 |
| 飛灰 | ひば | ごみ焼却時に発生する排ガス中に含まれる灰のこと。集じん装置などにより捕集される。 |
| プラットホーム | ぶら | ごみピットにごみを投入するための場所。 |
| プラント | ぶら | 工場などにおける大型設備や機械などを組み合わせた施設のこと。 焼却施設においては、受入供給設備、焼却設備、排ガス処理設備など、一連のごみ処理工程に係る設備群を総称してプラントまたはプラント設備という。 |
| プラントメーカー | ぶら | プラントの設計・機械製造・建設などを行う企業や会社のこと。 |
| 【ら行】 | | |
| ライフサイクルコスト (LCC) | らい | 施設が建設されてから、その役割を終えるまでにかかる費用全体をとらえたもの。本計画では、施設建設に必要な費用（インシヤルコスト）と、施設運営に必要な費用（ランニングコスト）のことを指す。 |
| 【英数字】 | | |
| DBO | | 「Design Build Operate」の略称。 公設民営方式の一つで、公共の所有のもと、施設の設計・建設及び長期包括委託による運営・維持管理を一括して発注・契約する方式のこと。 |
| PFI | | 「Private Finance Initiative」の略称。 公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法のこと。 |
| RDF | | 「Refused Derived Fuel」の略称。 一般廃棄物を原料としたごみ固形燃料のこと。 |